

九州大学附属図書館のWeb学習ガイドCute.Guidesの 取り組み：図書館TA（Cuter）と協働した学習支援

星子, 奈美
九州大学附属図書館

<https://hdl.handle.net/2324/6792882>

出版情報：図書館雑誌. 115 (8), pp.472-473, 2021-08-20. Japan Library Association
バージョン：
権利関係：

九州大学附属図書館のWeb学習ガイドCute.Guidesの取り組み — 図書館TA (Cuter) と協働した学習支援 —

星子奈美

1. はじめに

本稿では、九州大学附属図書館が提供するウェブ上の学習ガイドCute.Guides¹⁾(図1)の導入経緯と概要、特徴である図書館TA (Cuter) との協働および導入効果について述べる。なお、ガイドの実例等の詳細は別稿²⁾を参照いただきたい。

2. 導入経緯

九州大学附属図書館がCute.Guidesの導入検討を開始した背景には、2009年度から2017年度にかけて実施された、九州大学の「教育の質向上支援プログラム (Enhanced Education Program; EEP)」がある。EEPの取り組みの中で、九州大学附属図書館は「学術情報リテラシーを高めるためのツール別、主題別のeラーニング教材の企画・開発・開発支援」を具体的計画の一つとして掲げ、2011年12月より米国SpringShare社のパスファインダー管理・提供サービスLibGuides³⁾のトライアルを開始した。その後、サービス開始に向けた初期コンテンツ作成や、インタフェースのデザイン調整を進め、2013年3月28日に「調べ方ガイドCute.Guides」として正式公開した。

3. 概要

Cute.Guidesの各記事は、初学者の学習支援と図書館の利用促進というサービスの提供目的に沿って、「学習・研究スキル」「専門トピック」「語学・留学・履修・進路」「資料紹介・読書案内」の4カテゴリから成る。2021年3月31日現在、公開中のガイドは197点で、このうち148点が後述する図書館TA (Cuter) の作成したガイドである。いずれのガイドも、先輩が後輩にアドバイスするような親近感や分かりやすさを重視している。

世界中の約5,700機関が導入 (2021年6月4日現在) しているLibGuides⁴⁾を利用することにより、ブラウザ上での直感的な操作、各ガイドのデザイン統一、コンテンツの再利用による効率的なガイド作成等が可能となった。2020年10月には利便性向上のため、LibGuidesの管理機能を用いたカスタマイズを行い、ガイド分類の見直しやトップページのリニューアルを実施した⁵⁾。

4. 図書館TA (Cuter) との協働

Cute.Guidesの大きな特徴は、記事作成において、図書館TA (Cuter) が中心的な役割を果たし



▲図1. Web学習ガイドCute.Guides



▲図2. 図書館TA (Cuter)

ている点である。図書館TA (Cuter) は、図書館職員と協働して九州大学における学習支援に取り組む大学院生である(図2)。先述のEEPの取り組みの一環として、2012年3月から「図書館学習サポーター」としての活動を開始し、2015年12月に大学における授業外学習を支援する「図書館TA」として位置づけられた。ガイド作成に加え、学習相談、学部1年生向け講習会、学際交流イベント等の活動に取り組み、学生が気軽に学習上の悩みを打ち明けられる身近な存在として活躍している。

図書館TA (Cuter) がガイドを作成することにより、図書館職員による直接的な支援が難しい、「脳波判読」「iPS細胞」「立体音響」といった専門性の高いトピックにも、詳細かつ分かりやすい情報を提供できている。学習ガイドとしての品質を保証する取り組みとして、ガイド公開前に図書館職員および図書館TA (Cuter) 同士で査読を実施している。救命処置のように生命に関わる医療系の一部のガイドは、教員からもチェックを受け安全性を担保している。また、対象期間内に新規作成したガイドの中から投票で優秀作を選定し表彰する「Cute.Guides大賞」を毎年開催している。

5. 導入効果

Cute.Guidesの運用開始から8年を経て、ガイド点数は約2倍、アクセス数は最大約10倍に増加し、2020年度は約121万件の年間アクセスがあった。図書館TA (Cuter) の専門知識と経験を生かしたサブジェクトガイドの提供が図書館サービスの拡張に結びついたと言える。

取り組みの先進性やガイドの内容に対しても高い評価を受けている。現代図書館情報学シリーズ『改訂 情報サービス論』では、Cute.GuidesがLibGuidesを使用した国内先行事例として取り上げられた⁶⁾。また、医学系Cuterが作成したガイド「はじめての実験ノート」は、研究不正防止対策の参考教材として国立研究開発法人科学技術振興機構の研究公正ポータルからリンクされた⁷⁾。

2019年7月には、国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築する「レファレンス協同データベース」に、Cute.Guidesの各ガイドを“調べ方マニュアル”として登録開始し、2年連続で国立国会図書館長より感謝の礼状が授与された。同年11月の第5回図書館レファレンス大賞では、レファレンスサービスの利用促進を図る取組事例として

「Web学習ガイド『Cute.Guides』による課題解決支援」が図書館振興財団賞を受賞した⁸⁾。受賞時の講評では、典型的な学生協働によるピアサポートの取り組みであり、地域に対する貢献も意識した事例として評価された。

さらに、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い図書館の閉館や利用制限を余儀なくされる中で、自宅学習に役立つガイドを迅速に作成できたこともCute.Guidesの導入効果の一例である。

6. おわりに

九州大学附属図書館では、図書館職員と図書館TA (Cuter) が協働し、初学者の学習支援と図書館の利用促進という目的に沿ってCute.Guidesを提供してきた。正式公開から8年を経て、安定したサービスを提供できるようになった一方で、認知度の向上や既存ガイドの陳腐化を防ぐアップデートなど、さらなる発展に向けた課題も生じている。学内だけでなく一般市民の生涯学習や地域の課題解決に一層活用されるサービスとなるよう、今後も継続的に検証と改善を行う予定である。

注

- 1) Cute.Guides. <https://guides.lib.kyushu-u.ac.jp/>, (参照2021-06-04)
- 2) 星子奈美, 渡邊由紀子. 図書館TAとともに創るパスファインダー: 九州大学附属図書館のWeb学習ガイドCute.Guidesを例に. 九州大学附属図書館研究開発年報. 2020, vol.2019/2020, p.27-36.
- 3) LibGuides. <https://www.springshare.com/libguides/>, (参照2021-06-04)
- 4) LibGuides Community. <https://community.libguides.com/>, (参照2021-06-04)
- 5) “学習ガイドCute.Guidesトップページをリニューアル”. 九州大学附属図書館. <https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/news/cuteguides-top-renewal-202011>, (参照2021-06-04)
- 6) 村上篤太郎. “発信型情報サービスの展開”. 情報サービス論. 山崎久道, 原田智子編著. 改訂, 樹村房, 2019, p.162. (現代図書館情報学シリーズ, 5).
- 7) “国内大学の教材・取組”. 研究公正ポータル. 国立研究開発法人科学技術振興機構. https://www.jst.go.jp/kousei_p/measuretutorial/mt_domestic_univ.html, (参照2021-06-04)
- 8) “【発表】第5回図書館レファレンス大賞 三賞決定”. 図書館総合展. <https://www.libraryfair.jp/news/9513>, (参照2021-06-04)

(ほしこ なみ:九州大学附属図書館)

[NDC10:017.7 BSH:1.九州大学附属図書館 2.学習指導]